

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

平山正実先生と牧医の召命 黒鳥偉作

エッセイ

『クリスマスものがたり』『たいようもつきも』フランチェスコのうた
未来を担う子どもたちに きどのりこ

本・批評と紹介

青野太潮 著

最初期キリスト教思想の軌跡 高市和久

崔亨默 著／金忠一 訳

権力を志向する韓国のキリスト教

深田未来生

岩野祐介 著

無教会としての教会 ミラ・ゾンターク

近藤存志 著

キリストの肖像 加藤明子

上智大学中世思想研究所 編

中世における信仰と知 金子晴勇

窪寺俊之 編著

スピリチュアルコミュニケーション

清田直人

研究会Fグループ 著

共同研究 日本ではなぜ福音宣教が
実を結ばなかったか 深谷春男

袴田康裕 著

ウェストミンスター信仰告白と教会形成

朝岡 勝

既刊案内

書店案内

8 AUGUST
2013



生涯の歩みと
本人の言葉から読み解く



自己超越の行方
佐々木勝彦

わたしはどどこへ 行くのか

常に前進しようとする人間の内的欲求である〈自己超越〉には、緊急自動停止装置のないことが判明した現代。世界大戦とナチズムに人生を翻弄されながら、その可能性を生き切ったE・フロム、V・E・フランクル、P・ティリッヒの生涯と言葉から、自己超越の行方を問う。

● 1,800円

キリスト教古典叢書

パンセ

パスカル 田辺保訳

● 5,460円

「人間は一本の葦でしかない……だが、考える葦である」。数々の名言で知られる『パンセ』は、人間の悲惨さと偉大さについて省察した思索の書であり、魂の世界を反映した瞑想録である。人生の意味への問いかけに直面させる箴言で彩られた畢生の名著、邦訳の決定版！



キリスト教古典叢書

アウグスティヌス著 宮谷宣史訳

『告白録』

マルティン・ルター著 徳善義和ほか訳

『ルター著作選集』

● 5,040円

● 5,040円

斎藤宗次郎・孫佳與子 との往復書簡

空襲と疎開の
はざままで

斎藤宗次郎、兒玉佳與子 兒玉実英編



宮沢賢治の「雨ニモマケズ」のモデルと言われる斎藤宗次郎が、戦中に、愛する孫佳與子と交わした往復書簡集。祖父と孫が織り成す愛と信仰の記録。

● 3,150円

教文館 説教塾共催 ハイデルベルク信仰問答450周年記念公開講演会
主題 「ハイデルベルク信仰問答と日本の教会」

日時 9月30日(月) 10時30分～16時

場所 キリスト品川教会 (<http://www.gloria-chapel.com/>)

参加費 1000円

講演者 吉田隆氏 (日本キリスト改革派仙台教会牧師)

加藤常昭氏 (神学者、説教塾主宰)



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館



出会い・本・人

平山正実先生と牧医の召命——黒鳥偉作

「人ではなく、神の方を向きましょう。」

神奈川県立湘南高校の先輩であり、自治医科大学の教員であった平山先生は、初対面の私を正面からとらえた。日本の精神医療の中でキリスト教信仰を守ってきた医師であったが、言葉の内に神への謙遜があふれていた。

「牧会と医療を同時に学んだらどうでしょうか。」

医学生のところ、信仰という背景を医学の世界で發揮する方向を迷っていた私に、平山先生は語りかけた。教会と医療という二つの畑を同時に耕すというヴィジョンは想像を超えていた。しかし、実は牧医こそが平山先生の歩まれた道を覚え込めることに他ならないと徐々に理解した。

「診察室は祈りの場です。」

医療に絶対はありえないだろう。医療者も神の被造物であるからには不完全な存在であり、もろく弱い。マンパワーの少ない地域中核病院で魂をすり減らし倒れそうになっていた私を平山先生は見透かしていた。ある日、北千住旭クリニックに向かった。室内に入ると、平山先生は少しうつむきながら私を貫いた。患者さんの治療を願ってやまない気持ちと同時に、医療者自身も神に祈ることがゆるめられている、と慰められた。それから私の問診は全て祈りに置き換えられていった。

「神に必要とされるときに年齢は関係ありません。」

「イノチを支える」（キリスト新聞社）の構想が練られたとき、50年近い年齢差、圧倒的な知恵の前にして立ちすくみ、恐縮する私に平山先生は力を込められた。この世でどんなに小さな信仰であったとしても、守り続け伝えることの重要性を諭された。

「患者さんから学びなさい。」

医者は言葉によって育てられる。しかし、それは患者さんからの生きた言葉でなくてはならない。素晴らしい治療による期待が高まる一方、信頼関係を築くことが難しい昨今の医療現場において、患者さんも医療者も共に祈る作業が必要であろう。医療技術の発達、社会の医療化という文脈に沿いながら病の苦悩、孤独を私たちはどのように生きていくことができるのか、まだ対話は終わっていない。

「年を重ねるとは、神に与えられたものを一つ一つお返しすることです。」

牧会と医療の橋渡しという荷を担う、それは人間としての限界と、やはり神の方角を常に確かめながら、信仰を守り、なおも医療現場に立ち続けることであり、平山先生から次世代に託された召命であると私は祈り続ける。

（くろとり・いさく）日本基督教団戸塚教会補教師、津久井赤十字病院
内科医



そのころ、皇帝アグストゥスから、
全世界の人口をしらべなさいもののおふれが
出ました。そこで、人々はみな、とうろくをするため、
それぞれ自分のふるさとへ帰ってまいりました。

ヨセフも、ダビデ家の 生まれでしたので、
おなかの 大きくなったマリアをつれて、
帰ってまいりました。

ふたりが、ダビデの南 ベツレヘムに
ついたとき、マリアは 月がみちりて、
あかほろろが うまれそうでした。

『クリスマスものがたり』

と結ばれるラストでは、マリアは糸を紡ぎ、ヨセフは板に鉋をにかけていて、幼子イエスはその鉋屑で楽しそうに遊んでいます。その後のイエスの苦難の生涯を思いながらも、こうした私たちの暮らすこの世の生活の中にイエスが来られた幸せを、この美しい画面に感じるのです。

一見、暗い夜の画面のようですが、闇の中からイエスの物語が光として輝き出るのが感じられる絵本となっています。

もう一冊の『たいようも つきも——フラ

たヨセフ、マリア、羊飼いや博士たち、そして動物たちの表情がとても素朴な優しさ、温かさにあふれて描かれています。

ヨセフと、ロバに乗った臨月のマリアが橋をわたりベツレヘムへ赴く場面は、なんと美しいことでしょう。

またイエスを連れてエジプトへ逃れる場面では、見開きにその逃避行が絵巻のようにあらわされていて、装飾性と物語との調和に思わず見とれてしまいます。

そののち、イエスさまはせいちょうしますます知恵がまし、神さまの愛に守られてぞだちました。

太陽を、夜を、月や星を、大地を、そして平和のために働く勇氣のある人びとをくださった神さまに感謝し、たがいに許しあうことができようにと祈り、やがて天の国を与えられる生命を感謝するこの詩は、フランチェスコが病んで、死期を迎え、ほとんど目が見えなくなった時にうたわれたものでした。

故郷アッシジ周辺のウンブリア地方の日常語で書かれたこの詩が、やわらかな言葉で現代の子どもたちに伝えられる意味は大きいと思います。

ンチエスコのうた』は、十三世紀にアッシジのフランチェスコによって、その死の前に作られた「被造物の賛歌」（太陽のうた）として知られる詩を、現代児童文学のすぐれた作家であるキャサリン・パターソンが、子どもたちに向けた平明な美しい言葉にしたものです。またこの日本語版では、藤本朝巳さんのわかりやすい訳がついています。

かみさま、わたしたちは よあけをつれてきてくださる あなたに かんしゃします。

まいあさ、おひさまで あかるく てらしてくださり、ありがとうございます。

『クリスマスものがたり』 『たいようも つきも』フランチェスコのうた

未来を担う子どもたちに

きど のりこ

(児童文学作家、小平学園教員)



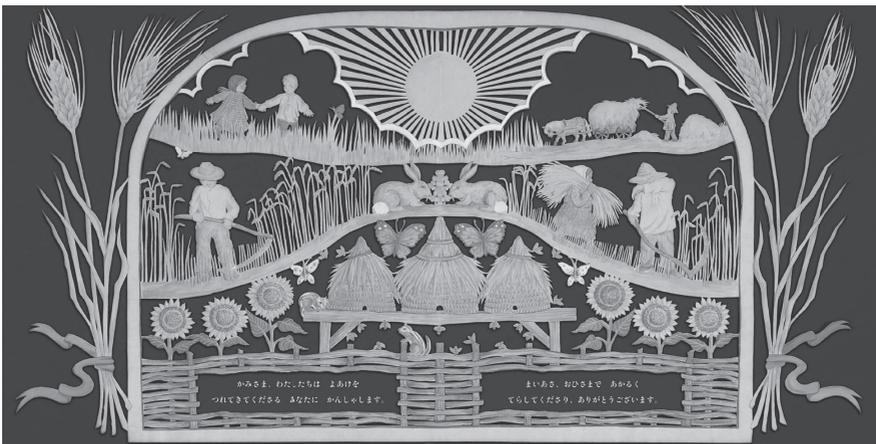
『クリスマスものがたり』パメラ・ドルトン 絵 藤本朝巳文
『たいようも つきも フランチェスコのうた』
キャサリン・パターソン文 パメラ・ドルトン 絵 藤本朝巳訳
日本キリスト教団出版局(リトルベル) 1575円(税込)

とてもすてきな二冊の絵本が私たちに与えられました。一つは『クリスマスものがたり』、一つは『たいようも つきも——フランチェスコのうた』です。

二冊ともバックの色調は深い夜を思わせる漆黒。そこに置かれた絵は立体感を持つてくつきりと浮かびあがります。いずれもアメリカの画家パメラ・ドルトンの見事な切り絵によるもので、十六世紀のドイツとスイスに起源を持ち十八世紀にアメリカへのドイツ移民たちが伝えた手法が用いられています。

『クリスマスものがたり』では、天使たちの翼、木々の葉や花々、幼子イエスの眠る餌い葉桶の敷きわらなどが繊細に表現され、ま





また、小鳥たちや狼に説教したという逸話でも知られているフランチェスコは、すべての被造物へのあわれみの心を持っていました。その自然観は、どのようにして自然と共生できるかと模索している現代の私たちにとって、教えられることの多いものです。

そして神が私たちを許してくださるように「わたしたちがいにゆるしあうことができまますように」と祈る一節は、当時、アッシジの司教と市長がいさかいを起こした時に作られたといわれ、この一節のために町に平和が戻ったと伝えられています。

フランチェスコの時代からすでに八〇〇年の歳月が経っている現代ですが、平和のための対話と、それを支える寛容の精神が今こそ世界に必要とされています。フランチェスコは、当時、イスラムとの対立の中で他宗教との対話を試み、平和の実現のために心を砕いたのでした。

そのシンブルさと美しさで、今もキリスト教文学の白眉とされているこのフランチェスコの詩を、絵本のかたちで子どもたちに伝える試みはすばらしいものだと思います。ここではパメラ・ドルトンは『クリスマスものがたり』と同様の印象的な手法で、人びとの暮らしや、耕作し種をまき、収穫し、粉をひ

き、パンを焼くという日々の労働の姿、子どもたちの遊び、動物たち、鳥たち、花々や蝶々を装飾的に組みあわせ、詩の言葉にふさわしい画面を作り出しています。また、絵の中にたくさんのお話の世界が見つかるといっても工夫されていて、何回開いても新しい発見のある絵本となっています。

ドルトンはかつてイタリアで絵画を学び、アッシジにも滞在したということで、神に創られたすべてのものへのフランチェスコの愛を深く理解した制作であることが感じられます。

さらに原詩では「死」をモチーフにした一節が次のように記されています。

賛美を受けてください、主よ。
わが姉妹、死の賛美を。
キャサリン・バターソンは、パメラ・ドルトンの切り絵を心に描きながら「被造物の賛歌」を読み直し、ことに「死」さえも姉妹として親しく呼びかけることができることを、すばらしい経験だったと述べています。絵本の文章では、

わたしたちは、いつか あなたに めされて、天の国へ いきます。そのときまで、おまもりください。
かみさまが、いつも あいしてくださいますように、わたしたちも 天の国で かみさまを あいします。

となつていますが、これはバターソンがこの絵本の読者が子どもたちであることを考え、「愛」はけつして死によって中断されるものではないことを、やさしく呼びかけたものと思われまます。

バターソンは、『テラビシアにかける橋』と『海は知っていた』でニューベリー賞を二度受賞し、さらに『ガラスの家族』や『ワーキング・ガール』『北極星を目ざして』などのすぐれた作品の業績に対して国際アンデルセン賞を受けたアメリカの作家ですが、一九五七年から四年間、キリスト教宣教師として日本に滞在したこともあります。クリスマスを題材にした短編集もあります。

すべての作品に、自由を求める子どもたちの葛藤と、それを阻んだり、助けたりする大人たちの人間のドラマが描かれる、卓越した作家です。根本に流れるキリスト教の精神が感じられ、特に『ワーキング・ガール』に出

てくる逃亡奴隷の黒人エゼキエル・フリーマンや、『北極星を目ざして』で「救貧農場」の檻の中に入れられながら「すべてよし」という神への賛歌を歌う「あばれモン」パットなどの人物造型は、それぞれの主人公である少女リディや少年ジップとともにいつまでも読者の心に残ります。

パメラ・ドルトンの切り絵によるこの二冊の絵本は、子どもたちの本棚から、いつまでも不思議な光を放ち続けることでしょう。そしてアッシジのフランチェスコの言葉も、遠い昔の聖人が残した過去のものというよりも、現代の私たちに、そして未来を担う子どもたちに語りかける生きた言葉として読んでいきたいと思えます。

また、この秋にはバターソンによる黙想と祈りの本もアメリカで出版されるとのことです、楽しみにしています。



『たいうも つきも』



キリスト教思想の軌跡を問いつけて
青野太潮著

最初期キリスト教思想の軌跡

イエス・パウロ・その後

青野太潮
著
イエス・パウロのその後
最初期キリスト教思想の軌跡

高市和久

本書は、去る三月に西南学院大学を定年退職された青野太潮氏が「最初期キリスト教思想の展開の軌跡を、イエス・パウロ・その後」という線で描こうと(二三四頁)した論文集である。「愚かで弱く、つまりきや呪いとしか人の目には映じない十字架の出来事が、実は逆説的に神によって肯定されており、そこにこそ真の救いがある」(二四〇頁)というパウロの十字架理解を、パウロ以前からあつた代理贖罪の思想と厳しく区別するのは、既刊の論文集『十字架の神学』の成立、『十字架の神学』の展開」や説教・講演集『十字架の神学』をめぐって」と同様だ。

ただ、今回はパウロの神学を一方でイエス伝承にさかのぼらせ、他方で使徒教父におけるその受容を問うという形で「軌跡」への関心をいつそう前面に出している。イエス、イエスとパウロ、パウロ、その後、正典成立に向けて、付論・現代への射程という六部構成にもその意図は見取れる。「パウロにとつてイエスの宣教は、少なくとも本質的な点では、意味をもたない」(一七三頁)というブルトマンのテーゼに多くの反証を挙げ、ガラテヤ三・二三に「生前のイエスのあの激烈な『無茶

件のゆるし』の福音に直接的に繋がる形で『律法の呪いからの贖い出し』(八四頁)を見る点が興味深く、ルカや使徒教父に対する両義的な評価(六〇二、六三三頁)にも懐の深さを感じる。

青野氏の本は初めてという方には、NHK学園の『聖書の学び』などに寄せられた四つの「エッセイ」から読み始めることを勧めたい。一般向けにかみ砕いて書かれているが、聖書の使信をとらえる方法の厳密さは専門的な論文に少しも劣らないからである。「弱いときにこそ——パウロの『十字架の神学』」も一般向きに書かれたもので、聖書翻訳のちよつとした違いがどれほど本文の趣旨を変えてしまふかを教えてくれる。岩波版『新約聖書』をいちいち確かめないと気が済まなくなるかもしれない。

これらに比べて専門的な論文は読むのにもどうしても努力が要る。中でも第三部の「パウロにおける歴史と終末論」と「パウロの終末理解」は骨が折れた。執筆時期が一九七一、二年と早いためかとも思ったが、同じく一九七二年の「パウロとその論敵の思想」はそれほどにも感じない。この印象が評者ひとりの

思いなしでないとすれば、前二者がブルトマンやケーゼマンをはじめ諸家の説を公平に客観的に検討しながらみずからの立場を定めようとしているのに対して、後者は(ある意味で主観的に)「呻きの生」という一点から本文を把握しようとしているためではないかと思う。幸い、本書に収める論文の大半はそのように絞り込んだ視点から明確に著者の主張を打ち出してくれている。

評者は神学校で著者の講義に触れ、現場でも十字架の神学を常に意識してきた者のひとりである。それでも「代理の死」の引力圏を脱するのは容易ではなかった。十字架と罪のあがないを同時に語っている箇所は新約聖書中のどこにもないと教室で繰り返し教わったにもかかわらず、特に子どもに語るときなど、ふと気づくと「イエスさまは十字架の上でわたしたちの罪のために死んでくださった」と言っていたりするのである。ある時から、このことは自分の中で禁句にした。では代わりに何を

言うのか。明らかに、「十字架の上で」を塗り消せば済む問題ではなかった。自分なりの言いかたに落ち着くまで二年ぐらいかかった記憶がある。大きな曲がり角であった。

震災が教会の宣教を根底から揺さぶった、とよく言われる。実際、被災地ほど「イエスさまはわたしたちの罪のために十字架にかかり」ということがちがくはぐに響く場所はない。だれの罪の話か。死者の罪か。生き残った者の罪か。そう問われれば答えに窮するのではないか。しかし、本書を読む者は災害にも揺るぐことなく立っている十字架を見いだすだろう。そのとき支援者が被災者から伝道されるということが起こってくる。いや、すでに起こっているはずなのだ。ただ、それに気づくためには一種の触角のようなものが要る。本書がその養いとなることを疑わない。

(たかいち・かずひさ)日本バプテテスト連盟市川八幡キリスト教会牧師
(四六判・八五六頁・定価六三〇〇円(税込)・新教出版社)

聖書学 古典叢書

編集史的方法の先駆
ローマイヤーが著した
古典的名著を本邦初訳!

ガリラヤとエルサレム
復活と顕現の場が示すもの

E・ローマイヤー 辻学 訳

第3回 記本

復活したキリストの顕現した場
《ガリラヤとエルサレム》に注目し、
マタイとマルコは「ガリラヤ」ルカ
(福音書、使徒行伝)が「エルサレ
ム」としたことの意味を追究する。

AS 判 上製・160頁・3150円

慰めの存在である教会が語る言葉

**キリストの教会はこのように
葬り、このように語る** 加藤常昭

キリストの教会はこのように
葬り、このように語る
加藤常昭

キリスト教の死と葬儀の意味を
聖書と歴史に立って語る。さら
に、11の前後の祈り・葬儀で
語った言葉を取録。慰めの共同
体の姿が鮮やかに浮かび上がる。
教会の葬儀を知るために。

四六判 並製・272頁・2900円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eiyou@bp.uccj.or.jp (価格税込)
<http://bp-uccj.jp>

韓国の教会におけるキリスト教信仰を問う

崔亨默著
金忠一訳

権力を志向する韓国のキリスト教 内部からの対案



深田未来生

深く考えさせる一冊を手にした。「小粒」であるのに、ピリリと心を刺激しながら読者の足元に思いを馳せさせるのである。日本の教会に身を投じて生きている人々にとつて、この刺激は極めて貴重である。刺激だけではなく、浮かび上がってくる韓国キリスト教と教会の描写は、私たちがそれらについて抱きかちな表面的イメージを問いなおす機会を提供する。

統計的に見た日本のキリスト教は、少なくともここ半世紀、けつして画期的とはいえない。牧師も信徒も真剣に伝道・宣教の任を担い、世俗化が浸透してゆく社会の中で、信仰を具体化しようと努めているにもかかわらず、である。青年たちの姿が教会に見えにくいのは日本に限ったことではなからう。しかし青年に、生きる意味を新鮮に指し示すことのできない教会には未来はない。この課題も繰り返し問われ、討論され、方策も打ち出されてきたのだが成果は見られない。

いわゆる「元氣な教会」も存在し、青年たちが活発に活動するグループもある。それでいて全体的に、活気が日本のキリスト教に満ちているとは言い難い。

想や信仰の確かさは疑いもなく、彼の主張の展開の中で明らかになつている。そして根底にあるのは韓国のキリスト教への愛と、あるべき姿として描き出される教会への強いコミットメントである。一九六一年生まれとあるから働き盛りの中堅青年牧師といえる。

展開される韓国教会の成長段階における姿は、日本と比較して必ずしもユニークとは言えない部分がある。しかし、韓国の文化や政治的環境や状況の要素が特色となつて、今日私たちが見る韓国教会の姿を生み出していることが鮮明になる。それを著者は「権力を志向する」と表現して、いくつもの原因を明らかにする。問われているのはキリスト教信仰とその表現におけるプライオリティの課題である。数字の増加や政治的、社会的「恩恵」に勝り、福音の本質に真実な実体としての教会はどうあるべきか、本著は韓国の歴史的歩みと現状を踏まえて、キリストにあつて生きようとする人々がどのような共同体を目指す

こう考えながら視線を隣国韓国に向けてと様相は極めて異なる。ソウルの聖日は教会へと急ぐ多くの人々で活気を示す。メガ・チャーチと言われる大規模な教会に限らず、多くの教会の礼拝は会衆で埋め尽くされ、声高らかに歌われる讃美歌は窓ガラスを揺さぶる。献金の額を耳にした日本のキリスト者は数字を少なめに聞き違えたと話したことがある。そして、日本からの訪問者は羨望の眼差しで韓国の教会を見ることが多い。

そのような表面的印象は全面的に不正確だったり、無意味だったりするわけではない。そして私たちは韓国のキリスト教から学ぶものが多いように考えてきた。私が見た、崔亨默牧師の韓国人キリスト者としての歴史的自己分析とこれからの道のりをチャレンジとする「対案」は、真の学びのための有効なテキストといえよう。ここでの「対案」とは「提言」と理解してもよからう。もちろんそれは崔牧師の働きの現場である韓国の教会に対してのものであるのだが。

私は崔牧師との面識はない。本著の最後に記載されている著者略歴を見てその人柄を想像するより他ない。しかし崔氏の思のかを厳しく問おうとする。厳しくはあるのだが、そこには確実に希望の光がさしてくることを読者は確信できるのである。希望の道のりを視野に入れながら、著者はけつして心地よくキリスト教から出発して、今日に至る職制の展開なども分析の対象として厳しい「解剖」にさらされる。このあたりは普遍的洞察として、日本のキリスト教も取り上げる必要がある。本著の大きな価値を指し示す一例である。

韓国と日本のキリスト教史と教会の姿の間には、共通点と明らかな相違点がある。わたしはこの一冊を手にして、日本側からも、崔牧師の提言・対案とペアを組める日本の状況を課題とした分析と展望が提供されることを切に願っている自分を発見したのである。

（ふかだ・みきお 同志社大学名誉教授）
（新書判・一八〇頁・定価一七八五円（税込）・新教出版社）



べてるな人びと やんむ とう うか かつふいーな （第3集）

向谷地生良
Ikuyoshi Mukaiyachi



幻覚&妄想大会!?
精神科医をやめて
参加したくなってきた!
香山リカさん推薦!!

〈べてるな対談〉三本立ても!
*辻信一×高橋源一郎×向谷地
*野澤和弘×向谷地
*大澤正幸×向谷地

四六判・上製
定価 1,890 [本体1,800+税] 円
ISBN978-4-86325-041-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「無教会」の聖書解的根拠
岩野祐介著

無教会としての教会
内村鑑三における
「個人・信仰共同体・社会」



ミラ・ゾンターク

二〇一一年、内村鑑三生誕一五〇周年を機に内村の遺産を再考する書籍が数多く出版された。それらのなかには、内村の人と思想とを誕生から死まで包括的に歴史的な脈において関わりあるさまざまな人物や出来事と対照しつつ描いたものもあれば、内村の生涯の特定の時期あるいは思想の側面の分析を試みたものもある。本書はどちらかといえば後者に属するだろう。その構成に見られるように、本書は京都大学大学院文学研究科思想文化学専攻提出の博士學位論文であり、他の書籍と比べ、全体の六分の一を占める出典表記や追加説明の豊富な注、細かい項目立てが注目される。

そのような構成のなかで本書は、内村の思想を解き明かしたこれまでの研究者による仮説に対して、内村自身の著作を大いに活用しつつ、問題提起に沿った分析を加えたものという印象を与える。では著者自身は具体的にどのようなことを解明しようとしたのだろうか。「第一章はじめに」の一行目で明示される課題は「内村鑑三のキリスト教思想の内実を明らかにすること」である。「内実」という言葉から、本書は「だれも見たこ

とがない内村」を解明するもののように見える。続く章で著者は、幾つかの対立的概念を提示しつつ、内村がそれぞれの場合においてその片方のみに縛られていたかのようなイメージが日本人の意識に浸透していると指摘しており、本書がもう一方の内村の紹介を意図したものであることが分かる。もう一方の内村とは、個人だけでなく「社会を思う内村」、義だけでなく「愛を大事にする内村」である。そのような内村を著者に伝えるために、内村における三つの問題、すなわち「個人の問題」、「信仰共同体の問題」、「社会の問題」が「義認論」、「教会論」、「社会改革論」と関連づけられ、各々に関する内村の聖書解釈が確認される。これらを見ると、本書の題目にある「無教会」とは、内村を創始者として現在まで「無教会運動」あるいは「無教会主義」を継承してきた人々の「無教会」ではないことが明らかであり、また内村だけの無教会主義に集中しているとしても、それを教義学的課題、予定説と万人救済説と結びつけて論じるという著者独自の視点がみられる。

また、「社会の問題」では、足尾銅山事件等において社会参

加しようとした内村の社会改革論について「社会主義」との相違点を示しながら、「宗教的法・ルール」（キリスト教の律法）に基盤を置く道徳的課題として分析される。他方この章では内村のナショナリズムにも触れられる。抽象的な「個人と信仰共同体と社会との関係」論は、必然的に個人と信仰共同体を取り巻く特定の地理的・文化的・歴史的な脈の中で具体化されるゆえに、内村の思想もそうした限界を負う。そこで著者は「国家論」と題する段落において、「日本的キリスト教」として内村の思想の性格を検討する。

本書の最後には、「第五章まとめと展望」が置かれ、「内村鑑三とは何者であったのか」との問いに対して次のように答えられる。

「内村鑑三は、聖書のメッセージを説き明かした文章を、それ自体としても極めて魅力的な日本語による文章で、多く残した人物である。その著作により、時代を超えて聖書のメ

ッセージを伝えようとする伝道者である（中略）重要なことは、内村の言葉を受け入れるか、受け入れないか、ではなく、聖書を通してキリストを知ることであるだろう。」

著者はここで岩谷元輝の内村批判に応答する形で内村の自己主張、すなわち「余は（他ならぬ、ただの）クリスチャンである」を再確認している。しかし、著者の狙いが何であったにせよ、この結論を以って本書は、奇妙なことに第一章において批判的に取り上げられた内村のキリスト教思想の「内実」に関する従来の研究者の仮説に再び回帰してしまっただけではないかと思われる。

(Mira Sonntag = 立教大学キリスト教学科准教授)

(A5判・三三〇頁・定価四七三円(税込)・教文館)



新刊

聖書学論集45

日本聖書学研究所編
●A5判並製 定価3150円

鉄は鉄を研ぐ

一箴言 (ミシュレー) 第II部、
第V部におけるレア (rēa' I)
加藤久美子

申命記史書におけるダビデ王朝
山我哲雄

エゼキエル書28章
11節~19節におけるケルブ
山畑 譲

「福音にのっとった殉教」による
インクルーシオ『ポリユカルボ
ス殉教物語』の文学的考察
浅野淳博

聖餐の成立をめぐる
荒井 献

カイサレイアのアレタス『ヨハネの
黙示録注解』と10世紀のビザン
ツにおける終末意識について
飯島克彦

ヨハネ福音書における贖罪信仰
—文学的方法による分析
伊東寿泰

ルカ福音書17:20-21の解釈
—とくに ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ
ἐντός ὑμῶν ἐστίν をめぐって
本多峰子

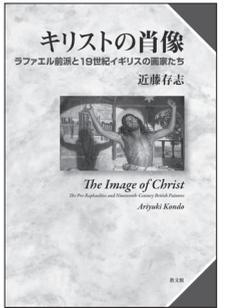
「父の家」(神の家族 Familia Dei)
—ヨハネ福音書における「家族」
メタファーとその意味
三浦 望

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

信仰復興にかけた画家たちの情熱と生涯
近藤存志著

キリストの肖像 ラファエル前派と19世紀イギリスの画家たち



加藤明子

十九世紀の英国で描かれたキリスト教絵画に関する「個人的な鑑賞の記録」であるという。しかし、「絵画の見かた」の一例を読者諸氏に紹介する」という本来の目的に対して、同時代の「信仰活性化運動」との関わりを軸として画家の制作意図を読み解くとき、著者の洞察は、力強い確信と勢いに満ちている。

産業革命を経た英国の発展は目覚しく、一八五一年には旅客列車の国内走行距離が一万キロに達した。同年開催された第一回ロンドン万国博覧会では、十万点を超す各国の産業製品にくわえて、鉄柱とガラスからなる会場「クリスタル・パレス」が評判を呼び、六百万人以上を動員した。この盛期ヴィクトリア朝の英国に、ロイヤル・アカデミーの推奨する様式上の規範に異をとなし、新たな芸術を模索して初期ルネサンス以前の美術に立ち戻ろうとする「ラファエル前派（ラファエル前派）」が台頭する。この前衛芸術家集団は一八四八年に結成され、その数年後には自然消滅したが、中心にいた芸術家ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティらは求心力を失わず、後進の画家エドワード・バーン・ジョーンズや装飾美術の大家ウィリアム・モリス

などの追隨者を絶えず惹きつけて、唯美主義運動やアーツ・アンド・クラフツ運動の形成に影響をあたえた。

従来、英国近代美術史に関する議論は、このような前衛芸術家の系譜とロイヤル・アカデミーに代表される体制派とを両極とし、その対立関係をめぐって展開されることが多い。だが、こうした二項対立的な構図にもとづく考察は、個々の芸術家の美術史上の位置づけを明確にする一方で、両陣営の芸術家が実際に共有したであろう同時代的な関心事についての精査を疎かにする危険性がある。これに対して、本書の著者は、そうした枠組から距離をおき、十九世紀の英国でキリスト教を主題として制作された絵画に的をしぼった上で、「近代という世俗的物質主義の時代」において「キリスト教絵画はいかに描かれるべきか」という根源的な問いをめぐる画家たちの苦闘を追跡する。個々の制作意図のなかに当時の「信仰活性化運動」に対する強い共鳴を読みとり、画面構成やモチーフの使用法にその具体的な発露を見出す点に、本書のきわだった特性がある。

前半では、アングロ・カトリックの信仰で知られるスコットランド出身の画家ウィリアム・ダイスの制作活動を通じて、物質主義的・功利主義的な風潮の強い十九世紀の英国でキリスト教美術を追求することの困難さが浮き彫りにされる。同時に、ローマの修道院跡に形成された敬虔な芸術家共同体「ナザレ派」の作品に対するアルバート公やラファエル前派の関心が示され、ヴィクトリア朝の只中にあつてもキリスト教美術を求める動きは止まらなかった事実が明かされる。後半の作家論では、個々の画家とキリスト教信仰の活性化をめざす諸運動との接点が明確にされ、著者独自の作品解釈が呈示される。たとえば、ラファエル前派兄弟団の画家ウィリアム・ホルマン・ハントによる《世の光》（一八五一年一八五三年）は、アングロ・カトリックの教会観や福音派の伝道姿勢に照らして、「『福音』の視覚化」として論じられる。同じくジョン・エヴァレット・ミレイが描いた《両親の家のキリスト（大工の仕事場）》（一八四九—一八

五〇年）は、アングロ・カトリックの典礼様式や礼拝空間に対する画家の関心から、教会堂内陣の祭壇における「聖餐」の恵みを讀めた作品として解説される。

気鋭の芸術文化史研究者による芸術体験の私的なメモを垣間見るような面白さもあるだろう。著者の「見かた」に沿って、十九世紀英国のキリスト教絵画史を跡づけてみるのもよい。個人的には、いつの日かロンドンのマーガレット通りにあるオール・セインツ教会を訪れ、アングロ・カトリックの礼拝空間を体感した上で、ダイスの描いた個々の作品とあらためて対話したい、という新たな願いが喚起された。

（かとう・あきこ＝三菱一号館美術館学芸員）
（A5判・二〇四頁・定価二六二五円（税込）・教文館）

東京神学大学の定期刊行物 目下発売中！

神学会・「神学」74号

「神学」は半世紀以上も読み継がれた神学専門誌です！

特集テーマ「世界史と救済史」 —近藤勝彦教授献呈論文集—

世界史と救済史……近藤勝彦
コヘレトの時間認識と救済……小友 聡
新約聖書における創造と終末……中野 実
テモテへの手紙—31-13における監督、
執事たち、執事である女性たちをめぐる……
……焼山満里子

あなたが救済史である……芳賀 力
歴史における偶然性の問題……神代真砂実
近藤神学の根本主張……西谷幸介
M.L.キングと非暴力……菊地 順
カルヴァンの希望の神学……関川泰寛
日本基督教団の「教会のかたち」……山口隆康
歴史の中に働く神……朴 憲都
救済史と説教……小泉 健

（その他自由研究2本 修論要約1本掲載）
■A5判・327頁・定価3,675円（税込）

総合研究所・「伝道と神学」3号

「伝道と神学」は東神大と教会を結び
伝道実践と神学の雑誌です！

近藤勝彦学長 最終講義

十字架と神の国……近藤勝彦

日本伝道協議会九州大会記録

伝えるべきことは、ただ一つ……大住雄一
教団信仰告白の旗じるしにたって……榎村重行
神には礼拝、人には伝道……尾崎和男
キリストのからだをこの地に……川島直道
教区の現状と不可避な選択……北畠友武
神への愛・隣人愛としての伝道……齋藤真行

教職セミナー発題

マルティン・ヘンゲル「救済史」を読む……中野 実
説教における世界史と救済史……小泉 健

（その他研究論文3本、博士課程後期学生の諸研究も掲載）
■A5判・218頁・定価1,575円（税込）

お買い求めは
全国キリスト教書店または
本学へ直接お申し込みください
〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30
東京神学大学 総務課
Tel 0422-32-4185 Fax 0422-33-0667
E-mail soumu02@tuts.ac.jp

中世思想を貫くもつとも重要な論文集
上智大学中世思想研究所編

中世における信仰と知



金子晴勇

本書はその表題にあるようにヨーロッパ中世思想史における信仰と理性との関係をその主要な思想家の営みを通して解明した論文集であり、上智大学中世思想研究所長を三〇年の長きにわたって務められたクラウス・リーゼンフーバー氏の定年を記念する論文集である。同氏は日本における中世研究をこれまで指導して来られ、多くの著作と編集活動によって多大の貢献をなして来られました。同氏に献呈されたこの論文集は実に中世思想を貫くもつとも重要な主題であって、氏の業績を讃えるにとりわけふさわしいといえよう。本書の「序文」には上記の研究所長である佐藤直子氏によって十六編の論文が時代順に四部分に分けて編集されており、「信仰と知」の問題が時代とともにどのように展開してきたかが簡潔に述べられている。

十六編の論文の著者と論文のテーマを（敬称を略して）まずは紹介しておきたい。出村みや子「護教論者における信仰と知の問題」、土橋茂樹「カッパドキア教父における信仰と知の問題」、出村和彦「アウグスティヌスにおける信仰と知」、谷隆一郎「神への関心のアナログア」、今義博「エリウゲナにおける

信仰と知」、矢内義顕「カンタベリーのアネルムスにおける信仰と理性」、リーゼンフーバー「ペトルス・アベラルドゥスにおける理性と信仰」、桑原直己「クレルヴォーのベルナルドゥスにおける愛の霊性」、中村秀樹「サン・ヴィクトール学派における信仰と知」、樋笠勝士「グローステストにおける信仰と知」、山本芳久「信仰の知的性格について——トマス・アクィナスにおける」、山内志朗「アヴェロエス主義と知性単一論の問題」、田島照久「マイスター・エックハルトの本質的始原論」、小川量子「ドゥンス・スコトゥスの信仰理解と神学の位置づけ」、稲垣良典「オッカムにおける神学と哲学」、佐藤直子「クザヌスにおける信仰と知」。

それぞれ紙幅の制限があるために、各思想家の主題に関する重要なテキストが要約的にまとめられている点で共通している。その中でももつとも重要な問題点が集中的に、あたかも一点突破的に提示されている論文が数多く見られるために、読者は次々に興味深く読まされてしまうことになる。たとえば土橋論文ではカッパドキア教父における主題の歴史的展開を追いつなが

らも、バシレイオスの三位一体論とグレゴリオスの世界創造論における共通の問題点が神性の本質と力動性の観点から言語学的に解明される。また谷論文でもディオニシオス・アレオパギテースとマクシモスによって神自身を「神の光が注がれる受容」によってアナログ的に接近する方法が一点突破的に提示され、読者に深い感銘を与える。同じような傾向が樋笠論文のグローステスト解釈にも田島論文の思弁的エックハルト解釈にも見いだすことができる。

他の論文よりも二倍も大きいのがリーゼンフーバー論文である。この論文ではアベラルドゥスの『最高善の神学』と『ローマ書註解』が主題に即して詳細に検討されており、理性が信仰問題に適切に関わる仕方が検討されている。このような哲学と神学に対する研究態度が同氏を中心とした研究者たちには徹底的に浸透していることが本書を読んでとくに痛感された。この模範的な研究態度は広く日本の研究者の間にも要請される事態

ではなからうか。なお、本書に収録された論文は個別的な思想家を重点的に研究したものであって、中世の全体を通観し俯瞰したものではない。それゆえ、そこから中世全体が特徴づけられるような著作が本書の著者たちの中から生まれまわってくることを期待したい。

（かねこ・はるお 岡山大学名誉教授）
（A5判・四三九頁・定価九四五〇円（税込）・知泉書館）

キリスト新聞社のDVD
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.
▶ 説教を学ぶ最良の教材！
好評発売中！

日本の説教者 第1巻

3枚組

DVD 日本の説教者 第1巻

平野克己・関谷直人 ● 責任編集解説

季刊誌「MESSAGE」（キリスト新聞社）の創刊と共に誕生し、本邦初の試みとして大変好評いただいたシリーズ「日本の説教者」がDVDセット全三巻として蘇ります！

■ B5判A15 DVD3枚組 付録冊子 5500円

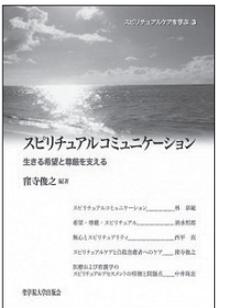
【収録説教者】
Disc ① (74分) 加藤常昭 (説教塾 主宰)、
深田未来生 (同志社大学名誉教授)、
Disc ② (66分) 榎原康夫 (日本基督教改革派東京総会 総会名誉教頭 (〇二〇三年七月退任))、
雨宮康 (上智大学神学部教授)、
辻哲子 (日本基督教団隠岐教頭)、
加藤博道 (日本基督教団東北教区主教)

「第1巻」(DVD4枚組)は
2013年夏発売予定!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ 2 階
TEL. 048-424-2067 (価格に税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

心のケアに行き詰まりを感じている臨床家に朗報
窪寺俊之編著

スピリチュアルケアを学ぶ3 スピリチュアルコミュニケーション 生きる希望と尊厳を支える



清田直人

日本におけるホスピス緩和ケアの領域で、スピリチュアルケアという言葉が浸透して何年になるだろう。現在、ホスピス緩和ケアの現場に限って言えば、スピリチュアルケアという言葉は、十分なコンセンサスが得られているといえよう。しかしその概念や方法論においては、未だ不明瞭のままであり、現場で働く医療従事者の多くが、「本当にこれで良かったのだろうか」と日々悩みながらケアに従事しているのが現実である。

さて本書は、わが国のスピリチュアルケアに関する研究の第一人者である聖学院大学大学院教授の窪寺俊之先生をはじめ、五名の先生方が講演や論文を通して語られたスピリチュアリーヤスピリチュアルケアについての見解や研究を構成したものである。

聖路加国際病院緩和ケア科部長である林章敏氏は、緩和ケア医として二十数年の臨床経験に基づいて構築してきたスピリチュアルケア論を展開している。中でも「患者がスピリチュアルペインを感じる前に、予防的にかかわり続ける」という実践から生まれた「スピリチュアルコミュニケーション」理解は、

「人として生きる支え」を意識しながら日常のコミュニケーションを図ることが患者にとって、どれほど大きなケアや慰めになっているのかを私たちに示してくれている。

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター特任教授の清水哲郎氏は、スピリチュアルが「自分の生きていく世界をどのように認識しているか」ということと、その世界をいかに生きていくかという態度が対になっている場面であると語る。その上で、スピリチュアルな苦悩に対するケアには、「生物学的生命」を土台とする「物語られるいのち」の物語を書き換える作業が必要であると語り、またその作業の助けになる具体的な関わり方や態度についても分かりやすく述べている。

京都大学大学院教育学研究科教授の西平直氏は、禅の中心思想ともいうべき「無心」の状態（特殊な二重性）を経由してなされるスピリチュアルケアについて解説している。特に西平氏が語っている「クライエントと一体でありつつ、同時に『一体である自分』を見ている。つながっているが、巻き込まれない。

特殊な二重性」、換言すればクライエントと援助者が一体になりつつも、決して巻き込まれていないのではなく、かといってはつきりと区別されているものでもなく、常に流動的で自在な状態でなされているスピリチュアルケアという視点は、メサイヤコンプレックスや転移・逆転移で悩む援助者にとっての大きな救いとなるだろう。

窪寺俊之氏は、苦痛からの逃避として自死を選ぶケースに絞って、そうした自殺念慮者に対するスピリチュアルケアの有効性について論じている。窪寺氏は、自死の直接的原因として指摘されている「心理的狭窄」に着目し、その病理（メカニズム）を明らかにしている。そしてその心理的狭窄に対処される「寄り添い」「共感」「心の動き方に焦点を当てる」「信頼関係の形成」といったスピリチュアルケアの基本的アプローチは、自殺念慮者にとって自死の防止や希望につながると語っている。

愛知国際病院チャプレンの中井珠恵氏は、医療および看護学

本書は、ホスピス緩和ケアにとどまらず、心のケアに携わる全ての援助者に、知識はもとよりさらなる臨床現場における手堅い実践への展望と飛躍をもたらす良書である。

（きよた・なおと）社会医療法人栄光会栄光病院チャプレン
（A5判・二七頁・定価三三〇円〔税込〕・聖学院大学出版会）

渡辺善太著作選④

聖書正典論

聖書正典論

2/1

好評発売中！



◎ヨobel新書16◎新書判・二五六頁・一、八九〇円（税込）
宗匠様とその周辺——センタゴン・ギャラクシー——早川敏
正典的聖書解釈と現象学
渡辺善太における現象学的態度
1 偽善者を出す処
2 聖書論——聖書正典論
3 現実教会の福音的認識 他
好評発売中！ ◎一、八〇〇円（税込）
次回配本予定
◎一、八〇〇円（税込）
近日常本予定

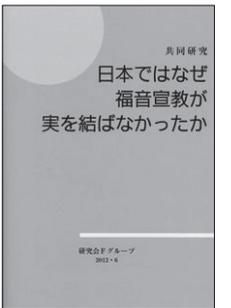
日本ケズイック・コンベンション
説教集 2013
第一のものを
第一に
生活・奉仕・地域社会

渡辺善太先生もケズイックで行われている聖書の説教（パイブル・リーディング）を推奨され、「聖書の説教とは？」で見事にその成果を展開されています。沖縄から北海道までの6地区10か所で開催された大会のメイン説教18篇を収録。
好評発売中
46判・188頁
1,365円（税込）

株式会社ヨobel YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

失敗研究で解決策探る
研究会Fグループ著

共同研究 日本ではなぜ福音宣教が 実を結ばなかったか



深谷春男

「チャレンジに満ちた」本である。
わたしは日本基督教団の牧師の一人として毎週講壇に立ち、「福音とはイエスキリストの十字架と復活の出来事である。これ以外に救いはない。日本のキリスト教会の歴史も一五〇年を超えた。いまだ、日本のクリスチャンは人口の1%に満たない。しかし、恐れるに足らず。神は時を巡らし、やがてキリストの季節がやって来る。われらは今、聖書に深く聞き、主の御前に熱き祈りをささげ、主の偉大なる御業に期待しようではないか」と語り続けている。

しかし、現在、さまざまな教派で伝道の業が、停滞下降線をとどまっている。「なぜか？」という疑問がそここし出てきているのを聞く。わたしの所属する日本基督教団の中でも議長自ら「伝道に熱くなる教団」を目指すこと、第38回教団総会では「伝道に熱く燃える教団を」形成しようと「宣教基礎理論」改訂の試案が出され、「伝道推進室」の設置が企画された。日本伝道論が大きな関心を呼んでいる。

このような時期に「チャレンジに満ちた」研究報告書が出た。本の題名も「日本ではなぜ福音宣教が実を結ばなかったか」。

①は「日本の教会はキリストの心を具現化していない」。たとえば知的偏重の福音理解。伝道、運営が下手。聖書に基づかない教会形成。正直に告白すると、読み進みながら、とても痛みを感じた。その②「教会の牧師指導者が未熟であるから」という結果。これは読んでいて気持ちが暗くなった。牧師、指導者の心が狭い。牧師の説教が悪い(！)。神学教師、牧師の実践神学が弱い。「牧師がダメ、役員がダメ、神学教師がダメ…」冷や汗をかく思いで、理想を持ってきて、それに到達できていない現実を指摘しても、消極的、否定的、破壊的(！)批評となり、教会は意気消沈してしまうよ、とか自「弁護しつつ(?)」読む。締めくくりのその③は「日本人は島国的な劣等感の束縛から解放されていない」。たとえば日本社会から教会が離れすぎ。敗戦による縮み。西洋コンプレックス。

この「科学的失敗研究」の後に、この結果を踏まえて五人の共同研究者の「小論文」が提示される。五人は次の通り。「牧

この書名が示すようにこれは「失敗研究」であり、KJ法を採用した「科学的質的失敗研究」。そこに斬新さと説得力を持つ。KJ法はご存じのとおり、文化人類学者の川喜田二郎の発案によるもので、先人観を排し、データをして語らしめ、定性的データを総合し、仮説を生成させる方法論である。客観的なデータによって語られる「研究報告書」であることが強調され、第一部はKJ法から見えてくる、日本伝道失敗の要因の究明に焦点が絞られる。

まず多くの教会のリーダーたちから実を結ばなかった理由(意見)をいただき、三九三枚のラベルを作成。これをデータにばらし、「分析」して結論を得るのではなく、「総合」(総合)して結論を得る。三九三のラベルは次の三つの「表札」のもとに統合される。

- ①日本の教会がキリストの心を具現化していない教会であつたから。
- ②牧師・指導者(長老、役員、執事達)が未熟であつたから。
- ③クリスチャンを含めた日本人が島国的劣等感の束縛から解放されていないから。

師の仕事」という実践的牧会論を書き、最近では「韓国はなぜキリスト教国になったか」を出された鈴木崇巨牧師。そして岸義敏先生、ミッシヨン二〇〇一青年宣教大会をはじめJTJ宣教神学校の創設者。クリスチャン新聞の編集長、膨大な教会の情報と日本の教会を見つめ続けておられる根田祥一氏。それに日本バプテスト連盟宣教研究所所長(当時)、西南学院神学部准教授の濱野道雄先生、そして東京基督教園理事長の廣瀬薫先生。それぞれの世界で宣教に生涯を捧げてきた先生方だ。五人の先生方の小論文を改めて読んでみると、「日本宣教」の使命と遅々として進まない日本伝道の現状への熱い祈りと冷静な分析の中に、洞察に満ちた内容が込められている。「妙薬口に苦し」。値段は安く五〇〇円(税抜)。次回「それではいかに伝道すべきか」も出してほしい。

(ふかや・はるお)東京聖書学校吉川教会牧師
(A5判・八〇頁・定価五二五円(税込)・いのちのことば社)

●2013年1月号から前月号まで、ホームページで閲覧できます。

今すぐ
アクセス!

本のひろば ホームページ

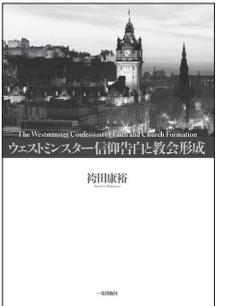
<http://www.bunshyo.or.jp>

「キリスト教文書センター」のホームページから書評誌『本のひろば』をクリックしてください!

一般財団法人
キリスト教文書センター
〒162-0814 東京都新宿区
新小川町9-1
TEL・FAX 03-3260-6520

今日の伝道の指針の書
袴田康裕著

ウエストミンスター信仰告白と教会形成



朝岡 勝

今から十六年前、教会での六年の奉仕の後、学びへの渴望を覚えて神戸の学舎に進んだ。書物を通して存じあげていた先生方から教えを受けられることを期待してのことであったが、ちょうど神学校は代替わり・様変わり時期で、新たな講師陣が担当し始めたばかりのときであった。神学校を卒業してまだ数年の先生方が、牧会と伝道の日々の中で懸命に講義ノートを準備し、情熱を傾けて教えてくださったる授業はまことに新鮮で、これぞ自分の望んでいた「教会の学」としての神学だと心躍る思いで毎回のクラスに臨んだことを思い起こす。そのような講師陣のお一人が本書の著者である。牧師として堅実な教会形成に奉仕しつつ、神学校においても歴史神学全般を講じてこられた。とりわけウエストミンスター信仰規程研究を使命とされ、スコットランドに学ばれた数少ない同信仰規程の専門家でもある。その著者が十七年にわたって仕えられた教会を辞し、神学校教授になられる機会にまとめられた本書の出版を、教えを受けた者の一人として心から喜びたい。

本書は第一部「論文」と第二部「講演・小論・書評」から成っており、第一部には八つの論文が収められている。そのうち回を続けるこの国の状況、自民党改憲草案が準備している思想信条、良心、信仰の自由に対する脅かしと、それらに対する教会の反応の鈍さを鑑みると、私たちが冷静にしかし危機感をもって、神学的にこれらの事柄にどのように対処していくべきかを学ぶ上で必読のものである。

第二部には東日本大震災を踏まえた講演が一つ、様々な紙媒体に掲載された八つの小論と四つの書評が収められている。これらの文章はそれぞれ扱うテーマも読み手も含めて性格の異なるものであるが、一つ一つを熟読するとき、そこから伝わってくるのは歴史を支配し、導かれる主なる神に対する恐れと、歴史の営みを顧みることへの謙虚な姿勢、そして困難を抱えるこの地になんとか主の教会を形成しようという真摯で誠実な思いである。巷では連日政治家たちが、自分よがりな浅薄な誤った知識に基づく歴史認識を声高に叫び、過去に傷を与えた人々にさらなる傷を加えている。「自由主義史観」「自虐史観」とい

の六つは著者の専門領域であるウエストミンスター信条に関する学術論文で、いずれも当時の歴史的・教会的状況への目配り、用語の慎重な吟味を十分に踏まえた手堅く実証的なものである。評者の知る限り、信仰告白文書をどのように読み解くか、その方法論はまだ十分に確立されているとは言えない現状であるが、説教における聖書テキストの釈義と同じく信仰告白文書についても「字義的・文法的・歴史的・神学的」釈義が必須であることを考えると、これらの論文はそのような信仰告白文書の釈義、解釈の一つのよい手本を示してくれている。

しかもそれらが単なる歴史文書の検証に終わることなく、絶えず今日の世界、日本、そしてそこに建てられた教会の現実と切り結ばれているのは、筆者自身の一貫した歴史神学者としての時代に対する鋭い洞察と、それを的確な言葉によって紡ぎ出していく神学的思考の強靱さのあらわれであろう。この点は特に「キリスト者の自由と良心の自由——ウエストミンスター信仰告白第20章の解釈をめぐって」「ウエストミンスター信仰告白における教会と国家——第23章『国家的為政者について』の解釈をめぐって」に顕著である。昨今の改憲論議と急激な右旋

う言葉が語られるようになって久しい今、あらためて私たちは「歴史的」に事柄を洞察する力、その洞察に基づいて事柄の本质を見極める術を身につける必要があるであろう。

今、評者には大きな励ましを与えられている。三年三カ月の神戸での学びを終え再び教会に遣わされて十三年が過ぎ、いつしか目の前の働きに忙殺されて、毎週の御言葉の奉仕にも十分な取り組みができず、学び続けたい課題はあってもそのための姿勢も時間もなかなか定まらない焦りと渴望の中で、「牧会する神学者・神学する牧師」の姿を具体的に見ることができたことで、自らもまた一つの群れを委ねられた者として、あらゆることを言い訳の口実にせず、与えられた時と場において、言葉の本来の意味で「神学する牧師」として主の教会の形成に励みたい、そのような情熱を駆り立てられているのである。

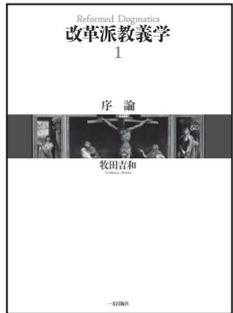
(あさおか・まさる) 日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会牧師
(A5判・三〇〇頁・定価四六二〇円(税込)・一麦出版社)



序論

〈改革派教義学〉第1巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



教会に仕える
教義学を問う！
教会形成の現場から、
教会形成に仕える
「教義学」とは何かを考える。

改革派教義学 全7巻
〈内容案内進呈〉

A5判・上製・函入
定価 4,200 [本体4,000+税] 円
ISBN978-4-86325-046-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

既刊案内 (2013年4月～5月) (定価は税込)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	定 価	版 元	発行日
大 宮 溥	十字架と復活への道 —マルコ福音書講解説教下	四六	244	1,995	教 文 館	4/15
アウグスティヌス著 金子晴勇訳	アウグスティヌス著作集 別巻II 書簡集(2)	A 5	496	6,300	〃	4/25
L.S.カニンガム著 青木孝子監訳	カトリック入門	A 5	432	4,410	〃	4/30
大 申 肇	頑な心と新しい心 —エレミヤ書の審判と救済の通告における人間論的視座	A 5	328	5,040	〃	4/30
森 下 辰 衛 選	水野源三精選詩集 わが恵み汝に足れり	A 5	240	2,730	日本キリスト 教団 出版局	4/11
越 川 弘 英、 松本敏之監修	牧師とは何か	A 5	386	4,830	〃	4/25
村 上 伸	良き力に守られて一 —牧師の歩んだ道	四六	200	1,890	〃	4/25
ケルスティン・ラマー著 浅見洋、吉田新訳	悲しみに寄り添う —死別と悲哀の心理学	四六	168	1,890	新 教 出 版 社	4/25
ブレイズ・パスカル著 森川甫訳	イエス・キリス トの生涯の要約	B 6	176	1,890	〃	4/30
東洋英和女学院大学 死生学研究所編	死生学年報2013 —生と死とその後	A 5	270	2,625	リ ト ン	4/1
久 保 田 浩 編	文化接触の創造力	A 5	272	2,625	〃	4/5
竹 内 皓	フィンランドの木 造教会を訪ねて	A 4	123	4,200	〃	4/13
齋 藤 孝 志	キリストの体である教会に仕える —エフェソ書に徹して聞く	新書	224	1,050	ヨ ベ ル	4/10
渡 辺 善 太	聖書論—聖書正典論2/1 —渡辺善太著作選4	新書	256	1,890	〃	4/20
近 藤 蓉 子	虹 の 橋	四六	164	1,050	〃	4/30
平 野 克 己 著 関 谷 直 人 編	D V D 第 1 巻 — 日本 の 説 教 者 卷	B 5		5,250	DVD3 収録・付 録冊子 キリスト新聞社	4/25
塩 野 和 夫	キリスト教教育と私 前篇	四六	246	1,575	教 文 館	5/5
榊 原 康 夫	使徒言行録講解6 — 20—28章	四六	282	2,520	〃	5/10
大 木 英 夫	人 格 と 人 権 —キリスト教弁証学としての人間学下	A 5	464	5,565	〃	5/25
J.グニルカ著 矢内義顕訳	コーランの中のキリスト教 —その足跡を追って	四六	218	2,310	〃	5/25
C.ヴェスターマン著 左近淑、大野恵正訳	「改訂新版」聖書の基礎知識 — 旧 約 篇	A 5	288	3,990	日本キリスト 教団 出版局	5/24
中 村 妙 子	ひかりをかかげて —C.S.ルイスよるこびの扉を開いたひと	A 5	122	1,260	〃	5/25

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zeninranki_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区宮城1-36 敷島センター17号F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	平新町短箱22 千葉カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www/seikokai-pub.jp/	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kirisu@kyoshotenjama@bb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yodobara.cs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		ktjordan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs	ochtbok@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一町11-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emacbs@yahoo.co.jp	

新教出版社

福音と世界

2013年8月号

特集 わたしの隣人とはだれか

日本のなかの東南アジア

日本のなかのフィリピン人……………	寺田勇文
深南部タイの紛争と平和構築……………	堀場明子
隣人としての在日ビルマ難民……………	根本敦
「在日ビルマ人」は、映し鏡……………	土井敏邦
カンボジア人として日本に生きる……………	久郷ボンナレット・萩原カンナ
……………	

《書評》松元雅和「平和主義とは何か」

片野淳彦

A5判・80頁・本体571円・¥68円
年間予約購読料¥共8,016円(消費税込)

神学の起源

《神学への船出シリーズ》
待望の第三巻！
深井智朗 著



神学とは一体「何故」必要になったのか。神学とは社会にとって「何」であったのか。そして「何故、今」神学が必要なのか。神学入門の入門編！絶賛発売中！

◎ 四六変判・226頁・定価1890円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

編集室から

数年前に自ら命を絶った親友の家を、何人かで訪れました。中には十年ぶりに会う友人もいて、家族を交えてしばらく話し込みました。故人の話も出ますが、話題の中心は今それぞれが抱えている問題、特に病気にことになりがちです。見た目にはお互いさほど変わっていないように見えても、それぞれの人生は違う段階に入っているのだと感じる会話でした。去る者は日々に疎し。去る者のことを考え続けていられる余裕は、私たちの日常にはないようです。

話が弾めば弾むほど、彼がいればどんな会話になっただろうかと思わざるをえませんでした。他の人たちも同じような思いを抱えながら、直接は彼と関係のない話をしていたのかもしれませんが。去る者は日々に疎し。されど、そう簡単に私たちが忘れ去ることもないようです。

彼はもういません。そのことは、私が今生かされていることを改めて教えてくれました。彼の死後、世の中にも私の身のの上にも多くのことが起こりました。嬉しいこともありましたが、弱い立場に置かれていく方々にとって、悩み苦しみがさらに増し加わるようなことのほうが多いと言えましょう。

そこで聖書はこう言うのですね。「汝ら常に主にありて喜べ、我また言ふ、なんぢら喜べ」(ピリピ四・四、文語訳)。喜ぶようなことなどさっぱりないところでも、主にあることで喜べるようになるのでしょうか。

私たちの近くに、遠くに、そして自分の内にあるさまざま悩み苦しみと向き合う時に、主にある喜びは訪れるのかも知れません。(はくた)

偽名書簡の謎を解く

パウロなき後の
キリスト教

辻 学著 誰だ？パウロの名を騙るやつは！

7月22日

パウロ書簡とされる13通のうち6つはパウロの名を騙った偽名書簡である。それらはいったいなぜ書かれたのか？ その主張や狙いは何か？ 最新の研究成果に基づいて偽名書簡に迫る本書は、いわゆる「第二パウロ書簡」に関する日本で初めての包括的・画期的な書である。

◆四六判・定価2350円

ローマ帝国とイエス・キリスト

磯部 隆著 イエス・キリストの世界史的意味とは

7月24日

福音書を徹底的に読み解き、イエスの世界的な意味を当時の世界帝国の背景から解明。(いそべ・たかし氏は名古屋大学名誉教授)

◆四六判・定価2730円

教皇フランシスコ

12億の信徒を率いる
神父の素顔

マリオ・エスコバル著／八重樫克彦、八重樫由貴子訳

日本語で読める初の評伝



気鋭のスペイン人ジャーナリストの書き下し。生い立ちから教皇に選ばれるまでを詳しく辿る。カトリック教会の抱える課題と新教皇の方向性も分析。解説は教皇のかつての教え子であるホアン・アイダル上智大学准教授。

◆四六判・定価1470円

イエス入門

定評あるオクスフォード大学出版局
Very Short Introduction シリーズ

リチャード・ボウカム著／山口希生、横田法路訳

イエスについて確実に知りうる一切を明らかにしてくる本書は、キリスト教や聖書に関心を抱く全ての人にとって、最適なイエス入門書となるだろう。

◆四六変・定価1995円



新約聖書入門

笠原義久著

【新教新書275】

新約聖書の「正典」としての意味、初期キリスト教の多様な流れ、主な文書・記者の神学思想、聖書の写本の話、そして新しい聖書学研究の傾向などを、やさしく解説・紹介した入門書。

◆新書判・定価1575円

主の祈り

講解説教

W・リュティイ著／野崎卓道訳

第二次大戦の終結直後、ベルリンに赴任するためパーゼルの教会を去る直前に語った、力強い12の説教。巻末には、リュティイが自らの生涯を振り返って綴った珍しい自伝的エッセイを付す。

◆四六判・定価2100円

神学の起源

深井智朗著

社会における機能

古代・中世・近現代に至る歴史を通じて、神学の果たした機能を追って、神学の果たした機能の驚くべき変化を追跡。社会と思想のダイナミックな関係に鮮かな仮説を提示した問題作。シリーズ「神学への船出03」

◆四六判・定価1890円

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457 e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp (価格は税込)

川端純四郎が最後まで執筆した『礼拝と音楽』連載を単行本化

バッハ万華鏡

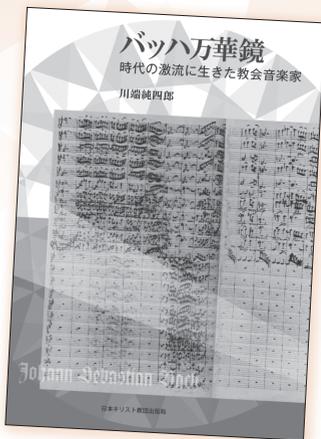
時代の激流に生きた教会音楽家



川端純四郎

バッハの生きた時代の社会生活、宗教改革がバッハの音楽に与えた影響、バッハ家の人々など、バッハをめぐる興味深い「こぼれ話」を、綿密な資料調査をもとに語りかける。今年5月に召天された著者の遺作。

◆A5判 上製・210頁・2,730円



マンガ牧師の愛とユーモアに溢れるメッセージ本が新装丁で復刊!



人生、一步先は光 はるな牧師のマンガ説法 春名康範

読み返すたびに、年齢を重ねるごとに、深く心に沁み入り、新しい元気が与えられる四コママンガと温かいメッセージが、ハンディになって再登場。

◆四六判 並製・216頁・1,890円

新装版

春名康範著書
好評発売中

マンガdeキリスト教入門 1,680円
クイズdeキリスト教入門 2,310円